巡礼の道 641

藤屋 侃士
(下松市幸ケ丘)

地元を大切に生きる
～日々の暮らしの中から③～

若い頃よく海外を旅した。と言っても、今朝の新聞広告「世界絶景100」に紹介されているもののうち、10分の1も行っていない。世界は広いと改めて実感する。

体力的に自由に行けなくなった今、海外もさることながら自分が日々の生活を過ごす地元を軽視していたことに気づく。先日「切山歌舞伎」の整理券をもらう。演目を見ても歌舞伎座で行っているのと同じだ。これを地元の子供や保存会の人たちが伝承しているというのだからすごい。9月16日のスターピアくだまつ大ホールでの発表が楽しみである。

さて、地元下松を代表する観光地と言えば笠戸島ではあるまいか。1970年に笠戸大橋で陸続きになったが、この大橋は中央の径間が深紅のトラス橋で美しく、笠戸島に相応しい橋だ。

まだこの大橋が架かる前に、義父が朝鮮から引き揚げた直後、笠戸島の南端の深浦小学校の校長をしたことがあり、昔、義父と一緒に訪れた。当時に比べ便利になっている。思いがけないところで義父のことを思い浮かべていた時、笠戸島の国民宿舎大城のランチグルメペアー券を貰った。地元の私たちはいつでも行けるので東京に住む長女が夏休みで帰宅するのを待って御馳走になりに行く。

ランチグルメの内容は

○笠戸ひらめの釜飯
○笠戸ひらめのお造り
○おこぜの風味揚げ
○魚介のアヒージョ(アヒージョとはスペイン語でにんにく料理のこと)の蒸し物
○鹿野のポーク陶板焼きなど、日頃、口にすることのないものがほとんどで堪能した。

娘たちが子供の頃、遠足か何かで笠戸島には来たことがあるらしく、懐かしく一時を過ごした。

ランチグルメ券には入浴券もついており、慌ただしくはあったがこの大城からの夕日は有名で露天風呂にも入った。昼間だったので夕日は見ることが出来なかったが、何度か来たことがある息子の話によると、余り広くない露天風呂に大人3人が横に並んで入るのが精一杯。のぼせないように夕日が見えるのを待つのも楽しかったという。

その他、笠戸島には日本の航空とスキーの先駆者という長岡外史の像もあった。すっかり忘れていた。

4歳になる孫の陽向君は保育があり、連れて行けなかったが、孫が娘たちに逢うため夕方訪れてくれた。ここでは、私が孫のために丹精込めて育てたスイカの入刀式をして、家族揃って楽しい一時を過ごせた。

同居ではないとはいえ、同じ地元の下松に住むことが出来るのは幸せ者といわざるを得ない。これからはもっと地元に目を向けて生きたい。

切山歌舞伎の記念公演は9月16日

ひらめの釜飯を絶景とともに食す

孫と共にスイカの入刀